

3 平成30年度の施策別事業実績と評価等(事業別)

【基本施策1】子どもがスポーツに親しむ機会の充実

		所属名	スポーツ振興課
事業No.	事業名		
1	【重点事業】子どもを対象としたスポーツ事業の実施		
事業概要	①各体育館等において、子どもや親子が参加できるスポーツ事業(一般公開、教室・講習会、交流機会など)を開催する。 ②「子どもサポートプラン」を実施し、区立プールを中学生以下の子どもに対して無料で開放をする。		
計画目標	拡充	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	①各体育館等 駒場体育館 24,793人、区民センター体育館 60,392人、碑文谷体育館 21,831人、中央体育館 5,339人 八雲体育館 6,169人、宮前公園庭球場 148人、砧野球場・サッカー場 1,192名 中央地区プール 8,138人 西部地区プール 13,432人 南部地区プール 10,978人 ②子どもサポートプラン 駒場体育館 2,102人、区民センター体育館 9,884人 中央地区 2,042人、西部地区 3,934人、南部地区 3,428人		
評価の理由	・親子での参加がよりしやすいように保育付きの教室を実施したり、教室事業の対象年齢の設定を広げるなど、より多くの親子や子どもが参加できるよう各施設で工夫しながら、一般公開、教室・講習会等を適切に継続して実施した。 ・地区プールにおいても関係団体等と連携を図り、子どもや親子が気軽に参加できる教室等を実施している。		
課題など	・「子どもサポートプラン」において利用者の増加による利用者同士の接触等、安全上の課題を解決するため、引き続き対応の検討が必要。 ・関係団体と協力して内容の充実及び日程の調整を行い、多くの区民が教室・講習会に参加できるよう検討を継続していく。		

		所属名	スポーツ振興課
事業No.	事業名		
2	スポーツ観戦事業の実施		
事業概要	スポーツの感動や応援するきっかけとなるよう、トップアスリートの競技を観戦する。		
計画目標	新規	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	トップアスリート競技観戦事業観戦種目及び参加者数 ・バドミントン 40人 ・バレーボール 31人 ・ラグビー 23人		
評価の理由	・小中学生等を対象に実施し、トップレベルの競技を競技場等で観戦することで、スポーツへの動機付けを促進し、スポーツに取り組む機運の醸成を図ることができた。		
課題など	・事業を継続するため、関係団体と協議を重ね、協力体制を強化するとともに具体的な種目、日程等の調整を計る必要がある。		

		所属名	子育て支援課・児童館
事業No.	事業名		
3	ティーンズフェスタインめぐろ		
事業概要	中高生の視点で文化的イベント・スポーツ的イベント等の企画、大人たちと世代を超えた交流を図り、中高生の社会参加と地域の活性化を図る。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	中高生を取り巻く行政内部の連携協力を深めていくため、オリンピック・パラリンピック推進課と連携し、「スポーツ振興パネル展～東京2020年オリンピック・パラリンピックに向けて～」の展示を実施した。 参加者数 579人		
評価の理由	9回の実績を踏まえ、中学校・高校が事業への理解や協力を深めていただく中で、中学生・高校生が生徒会や部活動を通じて継続的な関わりが図れ、定着傾向にある。新たな団体も加わり世代を超えたつながりが生まれ、さらに絆を深め若い世代の社会参加と地域の活性化が図れた。		
課題など	<ul style="list-style-type: none"> ・ティーンズ・フェスタの10回目の節目の開催を迎え、オリンピック・パラリンピック推進課と的確に連携を図り、中高生の視点や参画を捉えながら東京2020オリンピック・パラリンピック大会への機運醸成の啓発を図る。 ・ティーンズフェスタを通じて区内公私立中学校・高校との連携や理解を深め学校を通じた参加・参画を促し更なる地域のネットワークを構築し、地域の育成者や協力団体と連携し中高生の社会参加と地域の活性化を促進していく中で魅力ある事業へ繋げていく。 ・各児童館において中高生のニーズの把握を的確に行い中高生向けの事業の充実、利用時間やスペースの確保を図り利用の促進や居場所の拡充を図る。 ・青少年を取り巻く関係所管と連携し中高生事業の活性化や中高生を取り巻く諸課題に的確に対応していく。 		

		所属名	学校運営課
事業No.	事業名		
4	めぐろ元気あっぷ教室の実施		
事業概要	肥満や体力不足など健康に課題のある児童を対象とした運動教室をめぐろ学校サポートセンター・区内小学校等で年間3期に分けて実施する。学校において児童観察している学校健康トレーナーが主体となって、児童に合わせた運動プログラムや生活プログラムを提供する。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	<ul style="list-style-type: none"> ・めぐろ元気あっぷ教室 会場:めぐろ学校サポートセンター、八雲小学校、碑小学校 参加者:第1期 延べ882人、第2期 延べ968人、第3期 延べ923人 実施数:7コース各15回 ・夏季水中運動教室 期間:3日間 参加者:延べ115人 		
評価の理由	対象となる児童や保護者、また学校関係者への事業の認識が高まり受講者も増えている。また、受講児童の健康改善効果が現れている。		
課題など	今後受講者が増加した場合は、スタッフ体制の見直しが必要である。		

		所属名	教育指導課
事業No.	事業名		
5	東京駅伝開催に係る支援		
事業概要	東京都教育委員会主催の中学生「東京駅伝」大会に、目黒区の中学生を代表して出場し他区市の生徒と競い合うことで、生徒の競争力及び体力の向上を図りつつ、スポーツそのものや自らの体力について考える機会を設ける。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	区教育委員会と東京都中学校体育連盟目黒支部、中学校長会との共催により目黒区中学生の代表チームを編成して参加した。区教育委員会の分担として当該大会の参加に係る経費を負担した。 予選会実施日:11月10日 目黒区予選会 会場:駒沢公園 参加校:区内11校(区立9校、都立2校) 参加者:42名選出(男女各21名) 大会実施日:2月3日 男子33位・女子29位・総合27位		
評価の理由	平成25年度以降は区立学校から最低1名は選手として参加している。目黒区の中学生を代表して出場し他区市の生徒と競い合うことで、生徒の競争力及び体力の向上を図っている。		
課題など	指導に当たる監督・コーチの教員は服務上、半日振替(大会当日は一日振替)での対応となるが、当事者は、振替人の関係で苦慮することも多い。また、受け持ちの部活動との調整など指導者の負担は少なくない。		

		所属名	教育指導課
事業No.	事業名		
6	学校における体育活動の充実 ①めぐろ子どもスポーツ健康手帳等の作成・配付 ②体力テストの実施		
事業概要	①子どもを取り巻く社会・家庭環境の変化に伴う基本的な生活習慣の変化を意識しつつ、健康教育を進めていくことが求められる中、子ども自身が自分の健康状態や体力を認識し、目標をもった取り組みに資する教材・資料を提供する。 ②体育の時間や体育的行事を通じ、生涯にわたり運動に親しむ態度を育てるとともに、体力テストにより子どもの体力や運動能力の課題を明らかにし、指導方法の改善に努める。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度実績	① ・「めぐろ子どもスポーツ健康手帳」(全小学生対象)の活用を図るための指導資料等を作成し、活用を促した。体力向上推進委員会(年4回開催)を立ち上げ、活用状況の課題を確認し、児童の実態に応じた内容に変更することを検討した。 ・「体力手帳(仮称)」とし体力に特化した取組を充実させる内容に変更予定である。 ② ・平成30年度全校体力テストを実施し、子どもが楽しく継続的に取り組むための指導方法の改善を図った。		
評価の理由	小・中学校では学校の実情に応じて、「めぐろ子どもスポーツ健康手帳」(全小学生対象)及び「健康の保持増進・体力向上のためにリーフレット」(全中学生対象)を活用し、健康の保持増進や体力の向上など健康教育を推進した。また、体力向上委員会では、今後さらに系統立てて指導を行っていくために、健康手帳・リーフレットの改訂に向け内容を検討した。		
課題など	・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けた、健康増進・体力向上の取組の充実 ・個々の健康増進につながる基礎体力向上の視点を重視した教育活動全体を通じた健康教育の推進 ・体力テストの分析による体育科・保健体育科における授業の改善の充実 ・系統的な健康教育の推進に向けためぐろ子どもスポーツ健康手帳及び中学生向けリーフレットの改訂 ・健康教育の推進の視点からの関係諸機関(学校運営課、スポーツ推進課、教育指導課)の連携		

		所属名	学校運営課
事業No.	事業名		
7	運動部の部活動(小学校の特設クラブを含む。)における外部指導員等に係る支援の実施		
事業概要	児童・生徒が自らの適性や興味・関心を伸ばし、体力の向上やスポーツを愛好する心を育む機会となる部活動の一層の活性化のため、教育の指導を補完する外部指導員等の確保と有効活用による質の高い指導の充実を図るとともに、大会参加等の公費負担による支援を行う。		
計画目標	継続	目標に対する評価 (平成30年度末現在)	B:計画目標を達成した
平成30年度 実績	部活動数(運動部のみ):小学校 4校4部、中学校9校66部 経費支出:試合参加児童・生徒旅費支出、試合参加費分担金支出、 外部指導員等謝礼支出、部活動合宿参加経費支出、 運動部指導員配置:部活動指導員3人、外部指導員59人 外部指導員全体研修会参加実績(運動部のみ) 春期:4月27日(参加者22人) 秋期:9月20日(参加者4人)		
評価の理由	概ね、前年度と同程度の外部指導員等を配置した。		
課題など	部活動の充実を図り、維持していくためには、外部指導員等のさらなる安定した人材の確保と指導力の向上が必要である。		